

殿堂が焼失してから、寛永元年中龍嶽和尚が殿堂を再建し、大香山桂林寺と改稱した。因て龍嶽和尚を中興開山とする。

當寺舊有村之西北號	長樂寺文明十六甲辰	歲所創草地任月末	國漕甲兵之事寺廢僧
法嗣爲茂草矣速正保	祖龍嶽和尚相攸當地	移寺結一把茅屋改號	於桂林繼翁白禪二
師夢寢斯寺開田立林	造立殿堂派通普濟法	水爲一方鎮護季己住	住僧如更傳堂字及
敗元祿丁酉冬予應於	檀請薰于斯席介來覃	研逐尼於衆緣更新	殿堂陶鑄銅鐘因記當
寺之所徒來以備後鑑	目忘不文爲之銘曰	大香山上梵鐘新成	渾身之口過界之聲
敵唱雙拳夜半正月	君臣合同海晏河清	所爲幾者六道四生	開鹿淨潔齊遊覺成
昔元祿十一沈成寅			

秋七月哉生明

尾州丹羽郡御供所村大香山桂林禪寺幼寺前任總持香補叟誌

願主 小口村 舟橋甚右衛門
 治工 名護屋 水野太郎左衛門

藤原政良

當寺院梵鐘記事より轉載

四、本尊 聖觀世音菩薩 木像 丈臺座上より二尺五寸

其の他の佛像

- 1 毘沙門天木像丈二尺五寸
- 2 達磨大師御尊像木像丈一尺八寸
- 3 永平寺開山御尊像木像丈三尺
- 4 龍嶽和尚尊像木像丈四尺
- 5 弘法大師木像丈一尺八寸

五、開基 桂林祖香和尚

六、開山 龍嶽元除和尚

參考 開基及開山の法系

永平道元(永平寺の開山)――	孤雲懷裝(永平寺第二世)――	徹通義介(永平寺第三世)――
營山紹瑾(能登總持山の開山)――	峨山紹碩(總持寺第二世)――	通幻寂靈 <small>總持寺第三世</small> 三ツ淵正眼寺開山
普濟善救(普濟寺の開山)――	直傳正祖(寶圓寺の開山)――	心中謙孝(寶圓寺第二世)――
桂林祖香 <small>(寶圓寺第三世)</small> <small>(桂林寺の開山)</small> ――	高岩理珮(寶圓寺第四世)――	桂室瀆寺(寶圓寺第五世)――
直膺正婁(寶圓寺第六世)――	大透慶除(寶圓寺第七世)――	喜松文穂(寶圓寺第八世)――
象山除耕(寶圓寺第九世)――	高山恕陽(寶圓寺第十世)――	南室宗薫(寶圓寺第十一世)――
快翁雲悅(寶圓寺第十二世)――	嶺室徐椿(寶圓寺第十三世)――	敬室聞宗(寶圓寺第十四世)――
當寺開山龍嶽元除		

桂林祖香 桂林寺ヲ開キシモ、平院ニシテ住職ハ無シ。龍嶽元除ニ至リテ法地トナリ、住職アリテ龍嶽ヲ第一世トス。

七、末 寺 尾張國東春日井郡岩崎村 縣洞寺

同 國丹羽郡曾本村 本會寺

末 堂 同 國同 郡豊田村 堂庵地藏堂

同 國同 郡江森村 同 藥師堂

同 國同 郡小山村 同 藥師堂

八、宗 派 曹洞宗

九、寺 寶 1 大般若經 六百卷全部十箱 寛政七年四月八日惣檀家十方施主 2 梵鐘 元祿十一年七月中鑄造口徑一

尺六寸四世布暗新添 3 涅槃像 大さ巾六尺長一丈勝時とある。 4 十六善神 大さ巾一尺八寸長さ五

尺 5 出立像

一〇、古書 無し

一、歴代住職 開山龍嶽元除和尚—— 隆山令準和尚(二世)—— 白禪智膺和尚(三世)——

布暗宣和尚(四世)—— 賢威舜豊和尚(五世)—— 隆志眞梁和尚(六世)——

慧極春禪和尚(七世)—— 報酬祖息和尚(八世)—— 天瑞祖眞和尚(九世)——

祖元良道和尚(十世)—— 眞海大珠和尚(十一世)—— 良瑞祖麟和尚(十二世)——

祖龍鐵門和尚(十三世)—— 森川祖水和尙(十四世)—— 鈴木祖道和尚(十五世)——

一、檀家及其の所在地 百五十戸 大口村及小折

一三、年中行事 舊二月十五日 涅槃會

舊四月 八日 降誕會(花祭) 新九月九日 盆施餓鬼會修行

舊十二月八日 臘八の御供養出立像を掛けまつる 春秋各二回 婦人會主催の説教五六百人集る

一四、寺 領 八反九畝十四坪 官有宅地 一町四反八畝二十六坪 畑の部 一一反四畝六坪 民有宅地

七反三畝二十三坪 雜の部 二丁三反五畝十六坪 田の部

一五、寺 格 法地三等三十九級

一六、建造物 1 本堂 間口十間奥行八間 向拜六坪 大正十年竣工

2 開山堂 同 三間 同二間半 不明

3 玄關 同 五間 同三間半 昇降口二坪 大正十二年竣工

4 庫裡 同 十三間同五間半 明治二十八年竣工

5 書院 同 五間 同三間 昭和三年竣工

二、地藏堂

- 一、所在地 丹羽郡大口村大字豊田東奈良子六二
- 二、創立 享保年間

三、山來變遷 當堂は堅威舜豊大和尚の享保年間創立による。秋葉三尺坊は寛保年間梁山宗市居士が名古屋小笠原氏より受來り併祀す。

参考

1、位牌

表
 釋 毛利宗甫居士
 秋葉施主
 釋 妙誦信女

口、石 鹽

四、本尊 延命地藏菩薩 木像

其の他の佛像

1 三尺坊大權現 木像

2 樂師 如來 石像 高さ一尺七寸年號元文三戊壬秋彼岸日

6 役の行者 木像 高さ一尺二寸

7 青面金剛童子 木像 高さ九寸

3 弘法 大師 木像 高さ一尺六寸

別社 稻荷宗甫吒 尼真天

4 千手觀音菩薩 木像 高さ一尺

5 阿彌陀如來 木像 高さ一尺

五、開山 堅威舜大和尚禪師

同位牌 前任總持桂林五世當庵堅威舜大和尚禪師天文二丁巳歲七月初八日示寂 世壽六十四

中興開山 舜應禪者首座

同位牌 當堂前任再建化主舜應禪者首座寛政十三辛酉二月十六日

六、宗派 曹洞宗

七、寺寶 涅槃像 四尺六寸、半 鐘

八、古書 無し

九、歴代住職 開山及中興開山の位牌二基有るのみである。尙住職は桂林寺の住職が兼ねて來たものである。

一〇、信徒 三里四方から集り拜する。

一一、年中行事 舊正月初丑三尺坊へ祈禱 信徒はくきの灰を持ち來て、線香の灰を貰ひ歸る。それをくきにまいて、火防と爲すのである。

舊正月二十八日 他毎月二十八日 四度(一日に祈禱する。)
 舊五月二十八日 開帳 五十年目
 舊九月二十八日 大般若轉讀 中開帳 二十五年目 期間は短い
 舊十一月十六日 火祭隔年に行ふ。

一、寺 領 境内四反一畝十坪 境外田四反七畝一坪

一三、寺 格 桂林寺末堂

一四、建造物 1庫裡 十一間四間 2本堂 四間五間半

三、鶴林山長松寺

一、所在地 丹羽郡大日村大屋敷字寺東八〇番

二、創立 元祿七年七月十日

三、由 來

謹て當山の御縁起を案ずるに、今を去る二百三十有七年前、惶くも人皇百十三代東山帝の元祿七甲戌年傳束和尚と稱する聖僧巡錫の途次、此地にて尊くも聖徳太子御作の藥師如來衰頽せる陋屋に鎮座ましますに逢ひ直に、感應去るに忍びず、意を決して錫を止め浴く江湖並に諸官に訴へ其助力を請ひ之が再興を發願せり恰も好し當時中島郡奥田村に長松寺なる廢寺あり、其本尊地藏菩薩靈夢を以て奥田の村人及傳

來和尚に告げ給ひ、大屋敷に移らんと請ひ給ふ。依而同年六月下院遂に奉遷し人皇九十九代後小松帝勅願道場たる東春日井郡小牧山の西方三ツ淵正眼寺の第三十三世戒穩真定大和尚の再興法地開山に拜誦し改めて鶴林山長松寺と號す。是れ實に當山の草創なり。次いで同年七月十日新堂成り始めて本尊藥師如來及地藏菩薩の奉安式を舉げ、住持三寶茲に備る。抑も此地藏菩薩は常に衆生を慈念し兒女を安養し給ひ、且つ國土に災患ある毎に其靈體に汗を出して衆生に災患を知らしめ給ふ。其例乏しからず、就中最も名高きは元祿八乙亥年正月六日辱くも地藏尊已の上刻より同下刻まで汗を流し給ふ。果せるかな、其年大旱魃なり、因て是地藏尊に雨乞ひし靈雨に浴せり。其外明治元年入鹿池の水害に其の難を逃れしめ給ひたる等にて、皆人の知る所なり。其他靈驗枚擧に不遑。又子供には安産無病長生の守護を爲し給ふが故に、世の人自然に延命子安御汗地藏菩薩と崇め、遠近の賽者絶ゆる時なし。又次に當山鎮守尾州開運護國三面大黒眞天は我國大國天出現の根本道場たる河内國大黒村大黒寺の本尊三面大黒天神の御分身なり。抑も大黒寺の御本尊は天智天皇の御代、或る年の正月彼の行者金剛山に籠り祈願し給ふ。恰も甲子の日に至り微妙の芳香と共に大黒天神五色の雲の中に出現し給ひしを、行者親ら造刻して恭敬禮拜し奉るものなり。此天神は本體大摩尼珠王如來の化身に坐しまし大福德自在圓滿菩薩と唱へ、一切貧窮無福の衆生に大福德を與へんとの御誓願あり。故に答し人ありて一心に供養尊重すれば忽ちに大福德を受くること疑ひなし。斯る因縁にや當村に丹羽太郎作と云ふ老翁ありき。常に河内の三面大黒天に信歸

し大いに福德自在の靈驗を受けたり。因つて更に報恩の參拜を爲し、歸途一の宮眞清田大明神詣つるに其門前に異容の老人現はれ告げて曰く、御身は大黒天神に歸依し福德圓滿の願を成就せられたり。以後は衆生結縁のために其大黒眞天の御形を毎年一千人に施さるべしと云ひ終るや煙の如く消え失せ給へり。太郎作老翁誠に不思議の靈感に動じ直に當山に來りて彼の眞天の眞像を造立安置して祭り、且つ毎年一千枚の御影を施さんことを發願す。是實に明治二十戊子の年四月甲子の日にして、爾來毎年舊正月初の子と丑の兩日を期して施し來れり。而して是を受けたる信心の輩は成るべく感應靈驗日に月に新にして近年に至り是を受けんと請ふ者萬餘に上り、又太々祈禱をなして心願成就を俟つもの數千を下らず、猶月參なすもの漸く多きを加ふ。嗚呼奇なる哉、尊い哉、三面眞天の大功德。

夫れ恭しく惟に眞清田神社に現れ給へる彼の老人は忝くも河内の大黒天神にして、御親らの御形を授け給ひしなれば、箔山の眞天は御分身なること自ら明なり。嗚呼有難や、善男善女の皆さまよ、此天神に歸依し御誓願にすがり給は、何れの諸天善神に祈願をなさるそれよりもいと迅かに、又速く此身今生衣食住に福德圓滿自在を得。今生安穩後生成佛の兩益を共に成就し給ふ可し。夢々疑ひ給ふなよ。祈禱至りに堪へざるなり。

(當山並に三面大黒眞天御縁起)轉載

四、本尊 藥師如來 三尺 天然木で聖德太子作、弘法大師開眼と聞き及ぶ。村の者によると此の佛像は幼川を流

れ來たもので拾ひ上げて祀つたものであるとの事である。

地藏大菩薩 三尺 金佛で汗地藏とも云ふ。奥田の池中にあつたものを當寺へ移したものである。

其の他の佛像 無量壽如來 臺上より二尺木像

三面大黒天 明治二十年當村丹羽太郎作寄進す 木像

釋迦無尼如來 木像 一尺八寸 行基作

三十三體觀音 木像 犬山寂光院、名古屋七ツ寺及當寺にあるのみである。寶永五年傳東和尚西國を廻る

こと三十三回淨財を集めて作つたものである。今傳東和尚の負ひ歩いたつし、も寺内に残つてゐる。

達磨 大師 木像 六寸

大元修理菩薩 木像 六寸

弘法 大師 木像 一尺二寸

五、開基 傳東和尚

六、開山法地再興開山正眼三十三世戒穩眞定大和尚禪師

七、寺派 曹洞宗 通幻派

八、寺寶 涅槃像畫 巾一間 十六善神畫軸 巾二尺

九、古書 易地建長松寺記 古帳一冊

一〇、歴代住職 當寺法地開山戒穩眞定大和尚—— 諦觀玄嶺大和尚(二世)—— 覺禪惠密大和尚(三世)——

有淵眞龍和尚(四世)——大雄良峯和尚(五世)——蘭溪賢龍和尚(六世)——
 大惠鐵道和尚(七世)——大光禪友和尚(八世)——大中祖道和尚(九世)——
 大賢達道和尚(十世)——大巖順峯和尚(十一世)——祖宗榮道和尚(十二世)——
 忍峯得禪和尚(十三世)——至上德滅和尚(十四世)

一、檀 家 六十五戶 汗地藏尊の信徒は二百有數である。

一二、年中行事 正月元旦より三日間 禁足で檀家信徒の家運長久と國家清平を祈念する。

舊正月初子丑兩日 當山鎮守三面大黑真天の祭

舊正月廿四日 初地藏尊緣日恒期大般若會

舊九月卅日より三日間 祖先祭

一三、寺 領 境内 五反三畝二十一步 境外田、畑、雜六反五畝十步

一四、寺 格 法地四等地六十二級

一五、建造物 地藏堂 間口六間半 奥行六間

庫裡

夫、當寺、當國中嶋郡奧田村及、破壊有之候處元祿七年甲戌之二月奧田村大屋敷村納得、而大屋敷村、引

寺願申候 本寺正眼寺久岩和尚寺社御奉行所横井十郎左衛門殿御代官天野半右衛門殿十衆林彌太助殿

御取次、而願書三通 本寺正眼寺奧田村長松寺大屋敷村庄屋中 引寺願書指上置申候得者同六月二十九

日願相叶小笠原三郎右衛門殿御宅、而郡御奉行三宅善八殿本寺正眼寺並長松寺、林彌太助殿御取次、而

被仰渡候 同七月十日大屋敷村庄屋組頭其外人足、而本尊藥師寺地藏正眼寺佛殿、引移申候 同八月二

十八日貳間五間之庫裡一字建立同十月五日、入佛供養導師正眼寺久岩和尚桂林寺香補和尚久保寺玄中和

尚其外僧衆十人在家五十人供養致候 元祿八乙亥正月六日辰之上刻已、下刻迄地藏尊あせかき給ふ 同

六月二十九日村中雨乞願申、付御代官衆稻垣其右衛門殿御指圖依有之則雨請地藏祈候得者翌日午后、半

時之大雨降申候 依之同八月右之爲御札村中近在之者共取持貳間五間之客殿建立致藥師地藏移、申候同

元祿九戊子二月八日 本尊藥師如來開帳六七日之間導師正眼寺覺福和尚僧衆廿四人、而大般若經轉讀

經、犬山瑞泉寺什物借用在家百人供養同七月廿四日夫施餓鬼始導師正眼寺會下大充和尚其僧拾貳人同

十一月廿八日門前川、壹間五間之板橋かけ申右是も公儀相叶申候 元祿十二己卯五月氏三明神上〇修覆

村中寺 致候 同十三年庚辰二月五日、大般若轉讀七日間之導師大充和尚僧廿四人在家三百人供養

經、正眼寺秀岩和尚新添借同拾四年辛巳 正月廿四日 西國三十三所觀音像建立

三十三體觀音堂造營觀化序

野僧清貧^ニ而三衣一鉢之外更^ニ雖^レ無^シ余長^ク昔時有^レ象^ト大慈大悲之感應^{コト}而憑^ニ于諸^ノ人淨財喜捨之信力^ニ奉^レ彫^下刻西國三十三所之觀音大士之尊像^上而安置^ス于丁宇草堂^ニ矣四壁嶮略^ニ而漸^ク至^ル傾頽^ニ今^ヤ也發^ニ再^一興之志^ト願^テ托^{シテ}鉢^ヲ於^テ十方檀那之門^ノ戶^ニ專^ラ求^ル資^ヲ助^レ而已豈^ニ論^セ財^ノ之多^ク少^ク哉各^々以^テ信心^ヲ放^テ捨^テ之^ヲ則其福不^ニ唐^ク捐^ス矣^ト傳聞^ク西^ノ乾^ノ三^ノ迦^ノ葉^ハ者^ハ於^テ夙世^ニ各^々同^{シテ}志^ヲ而修^ス理^ス於^テ古佛^ノ堂^ニ由^テ此^ノ善根^ニ後^チ值^フ干釋尊^ノ之出世^ニ終^ニ證^ス無漏大果^ヲ者^ハ也是蓋^{シテ}依^テ於^テ小因^ニ得^ル於^テ大果^ヲ之實證也於^テ戲大^{ナル}哉普門^ニ品^ニ所謂^ル六^ノ十二^ノ億恒^ノ河^ノ沙^ノ菩薩盡^シ形壽禮^拜供^養之功^ト德^ト兼^テ觀世音菩薩^一時禮拜^ノ功德^ト正等^ニ無^レ異^ト而所^レ得^ル福^ト德無量無邊^ニ而於^テ百^ノ千^ノ萬^ノ億劫^ニ不^レ可^ク窮盡^ニ云^ニ加^ス焉觀音菩薩^乘於^テ拔^キ苦與^テ樂之大^ノ願^ニ而有^テ於^テ自在神^ノ力遊^ニ於^テ娑婆世界^ニ隨^レ機^ニ赴^レ感追^レ類^ヲ生^レ形^ヲ無^レ刹^ト不^レ現^レ身^ヲ矣唯願^ク善^ノ男^ノ子善^ノ女^ノ人普^ク施^テ不^レ堅^ク財^ヲ重^ク寶樓閣^ヲ到^テ千^ノ莊^ノ嚴圓^ノ滿日^ニ而信^ジ之拜^ス之則不^レ涉^ラ於^テ山川^ノ不^レ踏^ク於^テ嶮^ノ道^ニ去^レ此^ヲ不^レ遠^ク而直^ニ遊^ニ于補陀^ノ洛^ノ之淨土^ニ諸^ノ人念^ノ々勿^レ生^ズ疑^矣

寶永五戊子年黃梅吉祥日

尾州丹羽郡大屋敷村
鶴林山長松禪寺住持比丘傳東謹誌
(當寺古帳轉載)

焉易地建長松寺記

太^一一肇^テ判^テ物^ノ各^々有^テ興廢^ニ其所^ニ以^テ興廢衰榮^ス者^ハ乃^チ交^テ易變化^ノ之道^也人則^之四^ノ時流^リ行^シ萬品自^ラ位^ト矣^ト所謂^ル交^テ易變化^ト者^ハ無^レ常生^一滅^一之道也至尊法^ノ之^ニ三^ノ藏配^テ布^シ四^ノ衆得^レ趣^ヲ矣^ト蓋^シ將自^リ其^レ興^レ者^ハ觀^レ之^ヲ則^チ天柱^ト成^リ乎^レ媯^ノ氏^ノ之手^ニ自^リ其^レ廢^レ者^ハ觀^レ之^ヲ則^チ阿房^ト亡^リ乎^レ楚^ノ人之火^ニ願^フ夫^レ興^レ廢^レ在^リ時運^ニ而時運^ハ在^リ天命^ニ苟^{クモ}非^シ其^レ識^ニ天命^一者^ハ安^ク能^ク得^テ興^レ廢^ト與^レ不^レ興^レ廢^ト乎^ト云^フ城西^ニ三里^ノ有^リ古刹^一字^ニ長松^一山^ヲ號^シ林^ノ地名^ト與^テ田^ノ原^ノ其^レ創^シ守^テ不^レ知^レ日^ノ于^テ何^レ年^ノ中^ニ請^テ正^ノ眼^ノ一^ノ嗣^ノ久^ノ山^ノ悅^ノ禪^ノ師^一爲^ス開^ノ山^ノ第一^一祖^ト爾^リ來^テ住^シ僧^若在^ルカ^ガ否^カ晨^ニ星^ノ稍^シ失^ス光^ノ耳^ノ屋^ノ宇^ノ沒^シ蒸^ノ芥^ニ羅^ノ月^ノ冷^ク照^シ禽^ノ獸^ノ空^ニ飛^テ滿^ク月^ノ悲^ク者^ハ蓋^シ有^レ年^ノ矣^ト是^レ其^レ當^ニ衰^一廢^一之時運^何住^シ而應^レ免^ル道^ノ之^レ有^レ元^ノ祿^ノ甲^ノ戌^ノ春^ノ龍^ノ山^ノ僧^ノ傳^ノ東^ノ爲^ス掛^ル錫^ノ之^レ地^ト滿^ク城^ノ臨^テ北^ノ郊^ニ經^テ驛^ノ路^ニ往^ク幾^ノ五^ノ里^ノ有^レ一^ノ邑^ト曰^ク大

屋敷一邑ノ之南ニ有野効一方一歩ニ水廻ニ左右ニ潺湲ト有聲トレ之上古鶴ト林地ナリ若シ夫陰雨霏々ト不開ケ天風颯烈ト怒レ號猛火盡レ夜ヲ而罔レ已矣 東ト公會ヲ徘徊ス乎此邑ノ之耆徳請三捨ヲ爲ニ蘭一若ト公ト喜テ而訟ニ諸官府ニ新ニ移ス奥田廢寺一其改ハ基ヲ者豈ニシヤ慮ニ千載之後乎哉乃トレ日ヲ關キ土ヲ爲レ基栽ハ松ヲ疊レ石ヲ永ク具ニ干山門ノ鎮ニ護ニ也蓋ニ惟鶴林ト興ニ長松逢ニ此境ニ若合一契而號衰ニ於古ノ地ニ盛於今ノ地ニ可知矣公且用ニ信施一之財衣鉢之余ノ曠田數十畝以爲ニ香燈之需ト其福産漸ク充ニ五三一口ニ耳翌年乙亥ノ昏枯ニ陳跡荒草一莖ヲ來テ爲ニ一宇壑坊也元祿庚申ノ穰且與ニ阿伯一敗ト突然モ公ノ造一修ノ之志シ母レ倦ニ事ヲ嗜レ善ニ不唐捐ト爽ト健不滅ニ少ト壯ニ心肝硬シ如レ鉄途ニ改ニ創壑殿及ビ香積短廊トタカラブルニ

視ニ舊規一倍セリ之朱楹白壁有ニ無於朝暉夕陰之際ニ幽磬梵音和ニ調セリ於邑養松濤之會ニ引ニ流水ヲ爲ニ蓮池ト不レ無ニ蘆山ノ風抑ト舊殿ニ所レ居者醫ト王善逝延命大士ナリ至更レ殿増スニ之以ニ大悲三十三聖也仍請ニ西方ニ尊像ニ安ニ最上ニ不レ無ニ淨土業金軀晃ニ耀乎寶殿麗ニ妍玲ニ瓏乎碧天ニ至ニ老ト者倚藜少ト者携手先ト者願レ之後者呼レ之已到者ハ胡跪未到者ハ仰望樵采牧ト者往還罔レ不レ歸ト仰主人之送客ト也似レ有ニ虎谿ノ制大凡ト抵下此境之彈ニ視ト聽ト者上青松古刹犬山ノ城郭楚綺瓊舟艘映ニ銀漢一朱紫混ニ彩雲一若伊吹ノ落暉催ニ遠寺ノ晚鐘富士ノ晴嵐澄ニ入鹿ノ湖水ト山歸ト然秀鼻端ニ者ハ飛車ト一朶也ナリ峰ト廻ト雲聯ト綿綿疊々不レ斷者三濃幽澹也雖モ景万殊ニ四時不レ同至テハ其欣於所ニ

遠望スル暫フ發上ニ幽聞ニ快然ト其致一也可レ謂一一方之法苑經ニ始テ於元祿乙亥穰八月一十八日ニ告成於寶一永甲申穰八月一十八日ニ至ニ法ト物供ト器嚴飾ノ之徵式ニ無ト不ニ畢ト備ハ其役ヤ也不咨ニ衆謀ト不レ募ラ化縁ト介然捨財ノ之所ニ輻輳ト也公ト謂衰廢之尾ハ必ス在ニ興隆之首ト再ト勤勞ト官ト府建塘ト二百三十十間於西ト北水涯ニ置ニ橋十笏於殿下池ト水蓋不レ忘河伯之忠ト也越之寶感ト應百廢俱ト興是其ト當ニ興隆之時ト運茲知若ト公知ト興廢ト知ニ時運ト天命ト也嗟夫僅ト僅ト有餘ト年之頃而視ニ大功ノ之落成ト如ト斯ト其ト斯ト匪ト公ト之力ト誰ト之力ト公不ト以自誇還諸時ト運不ト以自有一還ト諸天命ト天命不ト言無ト可レ得ト而記ニ余記レノ之一垂ト來ト鑑ト告ト寶ト永丙戌

穰八一月刻

城一北脩竹野一人
猛虎一海手書記

(當寺古書轉載)

〔附〕 小平治弘法由緒

小平治姓は野田大屋敷本郷の人なり大工を職となす。壯年の頃博奕を好み無頼の徒と交り村人の指彈を受くること多かりしとか博奕場より微醉を帯びての歸途小川に架けられし小橋の數日來の霖雨に流失せるを見村内の某有力者の宅に

至り架橋の件を強説せり、然れども小平治の素行を知悉せる某は一笑に附して「大工仕事は御身のお手のものならずやしか云ふ御身何故になさざる」とて突はなてり、奮然某家を後にせる小平治つらく思ふらく村内の小橋すべて木造少かなる出水にも忽ち流失架橋に暇なき有様なれば自然放置せられて村人の難澁いはんかたなし流失の憂なき石橋にしたらんにはと、翻然意を決し爾來東は秩父坂東の弘法大師靈場、西は西國の諸靈場を巡拜し喜捨を得ては郷に歸り石橋を架すること實に十有三かくして指揮をほし、にせる村人の誹訪は小平治讚仰の聲とかはれり彼小平治も佛化の尊きに浴するに至つて昨日の悪夢より覺め救はるゝもの、喜びを諸人にも分たんとこゝに在家八十八ヶ所の開基を志し遂に之をも達成せり、かくて明治三十三年村人等の愛惜裡に長逝せり、戒名を覺翁大師といふ。

近來に至り在家弘法八十八ヶ所巡拜の人々開基の恩人小平治が墓所を訪ふもの多きを加へられ其の墓さへも詳かならざれば村人有志相謀りて長松寺境内に小平治の靈をまつり名づけて小平治弘法といふ。昭和二年の春なり。

(長松寺古書轉載)

四、檜岩山圓應寺

- 一、所在地 大口村大字小口字島内四八番地
- 二、創立 寶曆八年
- 三、由來 大口村大字萩島二十九番戸田山地九右工門として祖先代々菩提のため、寶曆第八龍集戊寅之年に建立し名

古屋市中區宮出町永安寺の頑翁曳石和尚之開山始祖稱圓應寺心鏡尼師爲第一世稱檜岩自堅居士爲開基圓應祥德居士者稱大壇越家者也(圓應寺由來書轉載ノモノ)

四、本尊 釋迦如來

五、開基 圓應祥德居士

六、開山 頑翁曳石大和尚

七、宗派 曹洞宗總持派

八、寺寶 十一面觀世音 せんに靈驗ありと古來傳へられ參詣者が多いと

九、古書 寺號手形一通 (寶曆七年丑十月)

- 一〇、歴代住職
 - 1 檜岩自堅居士
 - 2 清屋惠關尼首座
 - 3 惠室清山尼首座
 - 4 一源鐵錐尼首座
 - 5 中興仙峯古菱尼首座
 - 6 本光靈源尼首座
 - 7 仙溪古童尼首座
 - 8 源透知參尼首座
 - 9 天室覺童

一一、檀家 無し

一二、年中行事 別に無し

一三、寺領 境内外一町八反廿四歩

一四、寺格 四等の六十級

一五、建造物 庫裡本堂 七間に四間半今より六十餘年前に建築のもの 山門 一字
 一六、境内佛堂 觀音堂…昭和六年一間半四面の觀音堂を建立し十一面觀世音菩薩並に弘法大師が安置してある。
 門外には觀音菩薩や地藏菩薩が安置してある。

五、藥 師 堂 (永安寺受持)

一、所在地 大口村大字小口字郷中六十一番地
 二、創立 天正十一年明治十二年十二月一日許可
 三、由來 由來不詳であるが明治初年までは田福山福生寺といつて今の上小口白山神社の境内にあつたが其の後現地にうつし寺號を藥師堂と改めたと言ふことである。

四、本尊藥師如來 本尊の由來…抑々當庵の御本尊藥師如來を安置し奉る由來は木曾川の分流木津川の流れを渡す大久地村字原田長淵にまたがり萬町といふ橋あり、頃は文明二年十月八日の夜より彼の橋の本より夜々光を輝やかしけり、其頃當村篤管城主織田遠江守廣近公の家臣田中宗右工門言ふ人有り之の由をき、てたそがれより彼の橋のほとりに到りて靜かにうかゞひ見れば不思議なる哉水面に光を現しける、宗右工門即ち近從に命じて水中を搜索すればかたじけなくも一體の尊像を得たり、之は將しく行基菩薩の御作藥師如來と見奉り直ちに登城して主君廣近公にさ、げ奉れば大いに喜び給ひ、我日頃藥師如來を信仰すればその

くまぐまによりて、かゝる靈像をさ、げ給ふかと禮拜し給へり、即ち城外鬼門除に一字を建立して安置し奉る所となる。それより城主廣近公は隱遁の身となり萬好軒に隱居し給ふ。今の妙德寺之也。其後二體の藥師如來を建立し給ひて大久地村三藥師と稱して朝夕信仰あらせられたりといへり。今當庵に祀り奉る藥師如來は火災の守り病難を救ひ給ふ靈驗少なからざれば各々心を清淨にして拜禮あらんことを

(明治二十年四月藥師堂敬寫)

右由來書により本藥師如來の由來概略を知ることが出来るのである。

「本尊藥師如來」木質にて表面に金粉を塗る 高さ一尺八寸横八寸二分縦四寸七分臺座一厚さ五寸二分横一尺五寸八分縦一尺四寸二分廻り五尺四寸御光直徑一尺二寸

五、開基 不詳

六、開山 木村良源

七、宗派 曹洞宗

八、寺寶 本尊

九、古書 無し 本尊由來書は何を寫せるにか不明

一〇、歴代住職 1 木村良源 | 2 吉田靈草 | 3 大森教禪

一一、檀家 無し

一、年中行事

舊一月八日—大般若 新九月四日施餓鬼 舊十月八日—おしやうとう 開帳—一代一度(住職)

吉田靈童の開帳の時は殊ににぎやかであつたと。

一三、寺領 境内外に約二反程の田、畑がある。

一四、寺格 七十六級

一五、建造物 本堂……三間一尺に二間のもの一字本尊を祀る

庫裡……四間三尺に二間のもの一字

法華塔 一基

第二項 臨濟宗

一、吉祥山妙徳寺 (妙心寺派)

一、所在地 大口村大字小口字宮前一四番地

二、創立 天文十三年

三、山來 當寺は皇統百二代後花園院の御宇長祿三年清和帝の後胤源の元勳武衛大將軍幕下の功臣織田遠州の大

守廣近公當郷稻木庄大久地村に於て初て城を築き其の城を箭筈城と名づく、其後隱遁の志切にして文明七年隱邸を此の地に經營す。庶民子來り月ならずして落成す、是を名づけて萬好軒と言ふ、これに安住する數年嘗て正眼天和尙の室を招き親しく菩薩戒を受け諱を常實と曰別稱を參猷と號す

仍て鬚髮を剃除し朝服を脱し緋衣を著く茲に於て大心光和尙瑞泉に榮を領し徒を匡す日常實菴主の隱室に就て遊息する、次で木蘭安陀會を菴主に傳付す、菴主晨香夕誦潔齊精進して念佛三昧に入る、此菴主圓淨活脫無礙自在日用行履の處なり。

或日舍弟伊勢守に謂つて曰く、吾曹歿する後冥福の爲此を隱室を禪刹となすべし、下嚴勲に命言す、後延徳三年九月廿四日を以て歿す。伊勢の守敏定公其の命に任せ菴主の歿する明年明廣元子年萬好軒を改め吉祥山妙徳寺と唱號す今に存在する庫裡即ち是也 (妙徳寺山來書轉載)

四、本尊 藥師如來(木質座像七寸)

聖徳太子の御自作であつて雷除藥師如來として傳へられてゐる。又織田遠江守廣近公箭筈城築城の折城の守護佛として祀つたものであると言はれてゐる。

五、開基 織田遠江守廣近

六、開山 大嶽宗喜和尙 中興開山……徹外惠薫和尙

七、宗派 臨濟宗妙心寺派

八、寺 寶 特別のものなし
 九、古 書 由緒正しい大寺であるが何等見るべきもの無いのは遺憾なことである。
 一〇、歴代住職名

- 1 大嶽宗喜
- 2 以文玄郁
- 3 乳峯玄味
- 4 徹外惠薫
- 5 豊雲痴倪
- 6 趙嶺祖柏
- 7 密山紹令
- 8 大株禪治
- 9 嶺岩法額
- 10 乾叟斯元
- 11 豊國寶暁
- 12 洞禪惠春
- 13 亮堂惠隆
- 14 邁宗義精

一一、檀家及び主な檀家の所在地 約三百戸 上小口、中小口、下小口、
 一二、年中行事 舊十一月五日開山忌 縁日開帳なし

●此の他妙心寺派年中行事として

毎 月	一日、十五日祝聖(聖壽を祈る)	九月一日	永源開山忌
一月十日	臨 濟 忌	九月三日	圓覺開山忌
一月十七日	百丈記	九月卅日	天龍開山忌
二月二十日	向岳開山忌	十月五日	達 磨 忌
三月二十二日	方廣開山忌	十月十五日	入制雪安居
四月八日	佛誕生	十月十六日	東福開山忌
四月十五日	結制(是日より楞嚴會を始め)	十一月(冬至)	祝 聖

六月三日	國泰開山忌	十二月八日	佛 成 道
七月五日	建仁開山忌	十二月十二日	南禪開山忌
七月十五日	孟蘭盆會解製(楞嚴會滿教)	同	妙心開山忌
八月十二日	相國普明忌	十二月廿二日	大徳開山忌
八月二十五日	佛通開山忌	同	除夜諸堂諷經
十三、寺 領 境内 七四三、六六坪	境外(田畑)四町二反三畝二十歩		
十四、を 格 準別格			
十五、建造物 本 堂 八間六間のもの	開 山 堂 一 宇		
	開山堂渡り 三間一間半 一宇	庫 裡 九間に四間(即ち萬好軒のあと)一宇	
	書 院 七間に四間 一宇	玄 關 四間に三間半 一宇	
	玄 關 四間に三間半 一宇	玄關敷臺 鐘樓、經藏、門、土藏各 一宇	

〔備考〕萬好軒のあと古代建造物保存資金として明治十九年一月金二百圓内務省から下賜された。

十六、寺 傳 縁起無し
 十七、境内佛堂 金比羅大權現、寒山十徳和尚、御嶽行者、地藏菩薩、秋葉大權現、般若心經十萬卷供養碑、庚申

二、大龍山徳林寺

- 一、所在地 大口村余野寺前一〇一番地
- 二、創立 永仁二年
- 三、山來 夫れ當時の來歴人皇九十二代伏見天皇の御宇永仁二年の創立にして、抑々北面の武士小池與八郎の開創なり、今を去る六百四十年のことなり。

當時中興開基は百三代後花園院の御宇長祿三年清和帝の後胤源元勳武衛大將軍幕下の功臣織田遠江守廣近尾州稻木庄大久地に於て初めて城を築き箭管城と名付く。廣近密に世を謝するの志有て本務を嫡子大和守に譲り鬚髮を剃除し朝服を脱し緇衣を着け潔齊し晨香夕誦す諱を常寶とし別號を珍嶽と親しく禪門に入り洞山の五位寶鏡三昧の旨を頒布し圓淨活脫無礙自在日行履の所なり、星霜移り文明元年に至り當時伽藍の零々たるを回復せんと欲して塔頭、龍福、全徳、寶光、徳重の四院をも改造し空母山徳蓮寺を更に大龍山徳林寺と改稱し、西京花園妙心寺悟溪和尚を招請し中興開山と稱す。悟溪和尚たるや幼にして道學研磨すること廿年終て師の印可を得て師跡を嗣ぎ後紫野大徳寺、尾張の瑞泉寺、美濃の瑞龍寺及び當寺等にして住山且雲衲を接すること久し。

高名天下に流布し明應六年五月廿四日御土御門院より大興心宗禪師の徽號を賜ふ。加之天保年間佛徳廣

- 四、本尊 正觀世音菩薩(座像)
- 協立 不動明王及び毘沙門梵天(共に立像)
- 五、開基 織田遠江守廣近
- 六、開山 悟溪和尚 創建 壽岳和尚 中興開山 繼山和尚
- 七、宗派 臨濟宗妙心寺派 初は眞言宗であつたが文明元年(織田廣近の時)から臨濟宗妙心寺派となつた。
- 八、寺寶 (明治三十六年五月十五日當寺から寺寶として愛知縣知事に報告したもの)

(徳林寺山來書轉載)

通國師の勅號を賜ふ。是臨濟派の頭領たり。永樂錢三十貫文々寄附しつゝ、ありしも惜哉天正十二年小牧山の戰に羽柴秀吉の兵變に罹り諸堂烏有に歸し餘す所唯だ古方丈並中門而已。現境内の建物即ち是なり。抑々古方丈及び中門の構造たるや用ふる所の用材は恰も古骨に似たり。眞に古代の風致を存せり。

1 藥師如來腹篋(壹尊) 白木像首部 縦六寸横四寸作者不詳

傳説 弊寺開山勅賜佛通清鑑禪寺文明年中上京之際途中道路に於て二三の幼兒戯に藥師如來の御首を繩に繋

ぎ玩弄し居たり、折柄清鑑禪師之を見て大に驚き給ひ幼兒に淨財を與へ如來御首を購ひ給ひければ幼兒等速に之を承諾したり、禪師歡喜し用途を托げて直に當山に持歸り藥師如來の腹篋りにして安置せられたり、不思議なるかな即夜枕邊に立ち告て曰く世に黃胖病にて難癒するものありければ之を救助のため青麩に煎米の粉末を

調合し施薬すべしと告げ賜ふ。禪師夢覺めて有難き佛勅なる哉と直に佛前に至り誦經禮拜し已來賣藥今發布以前迄は施薬なしたり。今に至る遠隔の地より請ひ來るものあれども維新已後法令の制裁を恐れ中絶せり。然れども前述の故を以て清鑑禪師が安置し給ふことは當寺歴代の傳聞する處なり。果して然らば今を去る四百三十有餘年なり。是れ何人の彫刻なるや當寺に安置して已前幾百年を経過したるものなるや詳かならず。(本寺所藏由來書轉載)

2 方丈棟札

方	尾陽國大久地城主	裏	大工 藤原朝臣彌市重宅 文明元丑二月吉祥日
丈	織田遠州守廣近開基		大龍山徳林寺比丘記之

3 中門合輪

文明七年九月造之坊

徳林寺中門棟木に合輪した木の裏に記入しあり是は先に該門引移の際發見したるものであると。

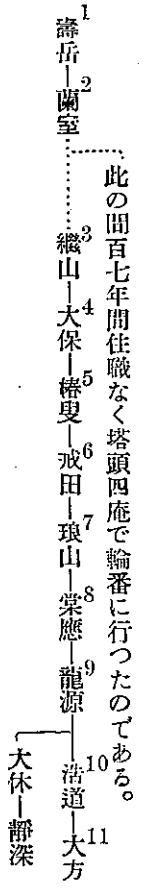
4 軸物 京都大徳寺大燈國師上堂之語 紙地絹表具木軸大徳寺一休和尚筆(開山傳來之軸である)

5 古文書寶物 (徽號壹軸) 安永二年十月六日勅賜佛通清鑑禪師宸翰用紙黄色紙天地表具は遠州綴子風臺天地一文

字紺地金欄中入地焦茶色金欄白角軸絹紐附

九、古書無し

一〇、歴代住職



備考……大休和尚は全徳寺中興開山である。

一一、檀家數、主な檀家所在地

約四百戸 余野 前野 下小口 今市場 宮後 山王 江森 村久野 柏森 上小口 河内屋 中小口

一二、年中行事(本寺特別のもの)

毎月六日 悟溪和尚の献鉢 毎月十日 臨濟禪師及び壽岳和尚の献鉢 七月十四日 山門施餓鬼

九月七日 中興献鉢 十二月九日十日兩日 開山忌

一三、寺領 境内八百八十九坪 境外(田畑)八町三反六畝餘

一四、寺格 別格地

一五、建造物

本堂 七間に六間一字 古方丈八間半に三間一字

總門 三間に三間半一字(犬山城黒門を明治九年金二十三圓で購入したもの)
 中門 一間半に一間一字(明治廿五年七月三十日修繕)
 庫裡 十間に五間一字(瑞泉寺山内臨溪院の庫裡を明治七年金三百九十圓で購入のもの)
 立關 五尺三寸に一間四尺 鐘樓 一字

◎備考

古方丈及び中門に古代建造物保存金として金壹百圓明治二十二年六月下賜された。

古方丈沿革 伏見天皇永仁二年小池與八郎貞利開建なり、中興開基尾州稻木庄大久地城主織田遠州守
 廣近文明元年に至り伽藍の零々たるを回復せんと欲して再建すといふ。以後修繕月日不詳なるも明治
 二十四年十月濃尾大震災の折大破し明治二十五年三月大修繕をなす。(徳林寺覺書轉載)

建築構造 桁行七間 渠三間 軒高九尺三寸五分 棟高十四尺 單層四方全戸であつて屋根は瓦葺で
 ある。

一六、寺傳 縁起 山姥物語あるも傳説の部に譲る。

一七、境内の佛堂 三十三番觀音 地藏菩薩(三界萬靈)

三、福新山全徳寺

一、所在地 大口村大字余野字宮前一四番地

二、創立 永仁五年

三、由來 永仁五年當郡羽黒村郷土福富大良輔創立にして全徳坊と稱す。文明元年本寺徳林寺二世僧壽嶽再興し

て全徳庵と改む。然して天正十二年兵火に罹り諸堂焼亡す。慶長三年海甫智公再興す。十世大休和尚の

時代に本寺徳林寺より獨立す。(全徳寺由來書轉載)

四、本尊 正觀世音

五、開基 海甫和尚

六、開山 壽嶽和尚 中興開山 大休和尚

七、宗派 臨濟宗妙心寺派 本寺徳林寺と共に眞言宗から臨濟宗に改宗した

八、寺寶 無し

九、古書 無し

一〇、歴代住職 海甫¹—古源²—潭月³—貫通⁴—壽山⁵—枝濟⁶—木蔭⁷—願海⁸—寶石⁹—大休¹⁰—靜深¹¹

一一、檀家數及び主な檀家所在地

約百五十戸 余野 下小口 砂場 石枕

一二、年中行事(本寺のみ特別のもの)

正月十六日 般若 七月七日 山門施餓鬼

- 一三、寺 領 境内六〇七坪 境外 田畑約三町
- 一四、寺 格 妙心寺派一等地
- 一五、建造物 本堂五間に五間のもの一宇 庫裡 八間に四間のもの一宇 門 三間に三間半
- 一六、寺傳縁起 無し
- 一七、境内佛堂 辨財天 地藏菩薩

四、大師 寺 (妙徳寺受持)

- 一、所在地 大口村大字小口字竹田三十九番地
- 二、創立 文化九年三月明治十六年六月十四日公稱許可
- 三、由來 右は往古より本村字竹田三十九番民有地に建設有之庶民信仰不淺候處明治十年乙第十號御達に付ては最寄へ轉合可仕處他へ轉合候儀は人民失望不得止其儘に致置候處追々信徒増加に付普く衆庶參拜致度維持方法への儀は今般信徒の有志より寄附の利金を以て永續の目的相立後年に至り候ても他力を俟不保存可仕同村臨濟宗妙徳寺住職尾關亮道以て受持と爲し三憲及宗教等信仰仕度尤庫裡之儀は往古より有之候得共自今取毀ち置候に付本文御許容相成候上は別紙繪圖面之通造營仕候間特別の御詮議を以て右同號公稱

之儀御免許被成下度村内納得の上は何方にも少も故障之筋無御座候依て別紙明細書公稱之後施行之目的繪圖面相添へ連書を以て奉懇願候也

明治十六年五月七日

信徒總代
村中總代

丹羽郡小口村臨濟宗妙徳寺住職試補尾關亮道

備考 大師堂公稱許可願を記して本堂の由來とする。

- 四、本尊 十一面觀世音 一一、年中行事 無し
- 五、開基 不詳 一二、寺領 境内 七五坪
- 六、開山 不詳 一三、檀家 無し
- 七、宗派 臨濟宗妙心寺派 一四、寺格 八等の三
- 八、寺寶 無し 一五、建造物 庫裡本堂二間半に三間のもの一宇
- 九、古書 無し 一六、寺傳縁起 無し
- 一〇、歴代住職不明現在は留守居番として森康信在任する 一七、境内佛堂 弘法大師像(コンクリート製)

五、觀音堂 (大龍山徳林寺受持)

- 一、所在地 大口村大字余野字西浦一九七番地 二、創立 慶長五年

- 三、由來 慶長五年本寺徳林寺僧繼山和尚創立延寶五年六月再建
- 四、本尊 觀世音菩薩
- 五、開基 不詳
- 六、開山 哲岩智賢尼
- 七、宗派 臨濟宗妙心寺派
- 八、寺寶 無し
- 九、古書 無し
- 一〇、歴代住職 1 哲岩智賢尼—2 定山智寂尼—3 仙林椿瑞尼—4 大衆瑞鏡尼—5 祖達岩梁尼—6 貫通祖了尼—7 鈴木妙嚴—8 小川祖梁
- 一七、境内佛堂 御嶽様 觀音様 庚神様
- 一、檀家 無し
- 二、年中行事 舊七月十日 新九月二日 施餓鬼
- 三、寺領 境内三四二坪 境外田畑約一反
- 四、寺格 八等地
- 一五、建造物 庫裡本堂 八間に四間半一字 明治二十四年濃美大震災に倒れ後改築
- 一六、寺傳縁起 ●佐奈田余一天王の軸 一輻 治承四庚子年八月二十三日夜石橋山合戦に討死せる人 ぜんそくに靈驗あり遠方の地から尋ね來る人が甚だ多いといはる

六、觀音堂(覺王寺受持)

- 一、所在地 大口村大字河北一三三七番地
- 二、創立 寛政九年二月五日 明治十年七月公稱許可

- 三、由來 扶桑村齊藤より仙田藤右工門と言ふ人キリスト教の壓迫をのがれて本村河北へ來た。其後同人は學母川の川普請に出で運拙く失敗し終に客死したとのことである。現在河北の仙田銀次郎の祖先其の靈を吊ぶ爲に高雄覺王寺住職を説き共に當庵を創立したものであると。
- 四、本尊 十一面觀世音
- 五、開基 領國院衆外圓中居士 萬重院關樸義透居士
- 六、開山 研宗眞和尚禪師
- 七、宗派 臨濟宗妙心寺派
- 八、寺寶 無し
- 九、古書 無し
- 一〇、歴代住職 1 天山童尼座元禪師—2 洪岳哲嚴尼首座
- 一、年中行事 無(特別のもの)
- 二、檀家 無し
- 一三、寺領 境内三七五坪 境外田畑七反三畝山林五畝
- 一四、寺格 八等地の三級
- 一五、建造物 庫裡本堂十間に六間 一字
- 一六、境内佛堂 三十三番觀音堂、千體地藏堂、藥師堂、稻荷社 入鹿池切瀕死亡靈塔、金比羅堂

第三項 眞宗

- 一、所在地 大口村大字外坪一四五番地
- 一、小林山本光寺

二、創立 天正年中

三、由來 往古は外坪本郷にあり天台宗であつた。當時の建立年月日開基等は不詳、現在の眞宗開基は謠信法師とて天明四年五月死亡された二代住謠信法師の時代天保二年火災に罹り寶物を焼失した。十三代住職は丹羽郡東野村眞成寺より入寺し渡邊と姓を變へた。

四、開基 不詳

一〇、檀家及び主所在地
檀家數約五十戸 外坪 上小口間々

五、開山 不詳

一一、年中行事 一月二日三日に報恩講を行ふのみである。

六、宗派 眞宗大谷派京都本山直末

一二、寺領 境内三六〇坪 境外畑畑山林約三町三反

七、寺寶 無し

一三、寺格別じよ院

八、古書 無し

一四、本尊 阿彌陀如來

九、歴代住職 謠山法師¹³ 善亮¹⁴ 東¹⁵ 先明¹⁶
十三代前は不明

一五、建造物 本堂四間に四間半のもの一宇 庫裡五間に三間半のもの一宇 座敷 一間

二、説教所

一、所在地 丹羽郡大口村大字外坪三四〇番地

二、創立 不詳

三、由來 不詳 明治四十三年まで本郷に有つたが明治四十三年現地に移轉したものである。

四、本尊 阿彌陀如來

一一、檀家及び主な檀家所在地
約七〇戸 外坪 小牧 布袋 名古屋

五、開基 平子佐工門

一二、年中行事 舊毎月二十七八日に開山 名門

六、開山 見眞大師

一三、寺領 境内の外約一反五畝

七、宗派 本派本願寺

一四、寺格 本派本願寺説教所

八、寺寶 四幅御繪傳

一五、建造物 庫裡本堂四間に八間のもの一宇 山門一宇

九、古書 無し

一六、境内佛堂 無し

一〇、歴代住職 顯誠¹ 謠誠² 卓然³ 内藤廣爲⁴ 顯誠以前は不詳

第四項 淨土宗

一、釋迦堂

一、所在地 丹羽郡大口村大字秋田字東郷前二番地

二、創立 天保七年

三、由來 天保七年替地全戸の寺として創立せられ今日に至つたものである。宗派は替地が禪宗眞宗二派である爲

それに關係のない淨土宗としたもので。

四、本尊 釋迦石の像で屋外にあつたものを堂を作つてまつたものである。

他の佛像 善道様 阿彌陀如來 釋迦 觀音法然

五、開基 泰譽安窓貞穩法尼

六、宗派 淨土宗

七、寺寶 無し

八、古書 無し

九、歴代任職 開基位牌の外に一個位牌があるのみである。 圓譽淨頓輪鏡法尼 明治三十三年子年舊五月二十六日

一〇、檀家及其の所在地 替地全戸

一一、年中行事 毎月二十一日弘法の大師命日で參拜人がある。 舊三月二十一日には參詣人多くて數百人に及ぶ

一二、寺領 境内二畝餘 境外(畑)十歩

一三、建造物 堂間口二間奥行二間半倉の古いものを修造したものである。 庫裡 間口三間奥行二間半

二、放光寺

一、所在地 大口村大字小口字寺田二四番地

二、創立不詳

三、山來 東京市本所區大手町一丁目にありて良徳院といひ慶長六年の創立に係るも其の緣由詳ならず然るに今般

西村教説の發願に依つて愛知縣丹羽郡小口村淨土宗佛堂放光庵に移轉合附の儀明治三十三年三月二十三

日東京府に出願同年六月廿六日に許可を得て更に同年同月卅日愛知縣に出願同三十四年三月廿七日許可

を得て全く移轉合附す(當寺山來書轉載)

四、本尊 阿彌陀如來

九、古書 無し

五、開基 西村家

一〇、歴代任職 1 西村教準 2 西村教説

六、開山 西村教準

一一、檀家 無し

七、宗派 淨土宗智恩院派

一二、建築物 庫裡本堂 二間に四間半

八、寺寶 無し

三、阿彌陀堂 (專修院受持)

一、所在地 大口村大字小口字新田二五番地

二、創立 不詳

三、山來 下小口酒井貫一家の先祖代々の菩提をとむらふ爲に一字を建立したものである。

- 四、本尊 阿彌陀如來
- 一〇、檀家 無し
- 五、開基開山 永安院圓空光慶居士
- 一一、年中行事 別に無し
- 六、宗派 淨土宗西山派
- 一二、寺領 無し
- 七、寺寶 本尊(恵心僧都の圖と傳はる)
- 一三、寺格 専修院末庵
- 八、古書 無し
- 一四、建造物 庫裡本堂五間に四間半のもの一字
- 九、歴代住職
 - 1 永安院空光慶居士
 - 2 天空智賢上人龍庵
 - 老和尚
 - 3 戒空隨教法寛尼
 - 4 教空智秋
 - 貞隨法尼
 - 一五、境内佛堂 無し

第五項 眞言宗

一、陽學院 (長久院受持)

- 一、所在地 大口村大字小口字下島一番地
- 二、創立 不詳
- 三、山來 大久地城主織田廣近管城築城の折三體の藥師如來を守護佛として祀つた其の一體を本尊とすとあるも

何時の頃如何なる變遷を經過して現在に至つたかは全く不明である。

- 四、本尊 藥師如來 木質座像にて高さ約一尺今は黒櫃の如く黒ずんで非常に古いもの、様である。
- 五、開基 腹籠藥師如來 高さ約二寸
 - 一〇、檀家 無し
- 六、開山 松月妙林優婆夷 三力院空天觀理優婆塞
 - 一一、年中行事 舊十月八日縁日
- 六、宗派 眞言宗醍醐派
 - 一二、寺領 境内百六十一坪
- 八、寺寶 無し
 - 一三、寺格 不明
- 古書 無し
 - 一四、建造物 本堂三間四尺に一間半のもの一字
 - 庫裡六間に三間のもの 一字
- 九、歴代住職 全く不詳 現在は丹羽郡古知野町出身の
大池徳次郎留守居番

第三節 神道

一、天理教御供所宣教所

- 一、所在地 大口村大字豊田南屋敷七五七六番合併地